保育総合研究会広報誌　NO. 70

発行所：　保育総合研究会事務局　　H29.9.13
茨城県東茨城郡茨城町上飯沼1276－1　飯沼こども園内
TEL029－292－6868　FAX　029－292―3831
発行人：　会長　　椛　沢　幸　苗

平成29年7月24日（月）午後1時から、アルカディア市ヶ谷私学会館において第58回定例会が開催された。

（開　会）13：15～13：30　　会長挨拶
（講演Ⅰ）13：30～15：00
＜テーマ＞「処遇改善、そして指導計画に反映させたい要領・指針のポイント」
＜講　師＞当会副会長　坂﨑　隆浩

・キャリアアップと処遇改善

保育士の処遇が低いのは、保育単価は「家庭の保育に欠ける子どもを措置する最低基準上の額」であり、園児数によって園全体の運営費が決まるため、園児数の減少や定員割れなどによっては昇給できないこともある。

［保育士等の処遇改善の推移］
平成28年度の給与では、公定価格に組み込まれた3％＋改善基礎分7％（勤続5年の場合）の合計10％が処遇改善費として上乗せされている。

［今年度の取り組み］
今年度は処遇改善Ⅰを全職員（1人あたり6，000円程度）に2％を実施。加えて処遇改善Ⅱとして月額最大40，000円の役職手当的を設ける。この施策は全体的に処遇の低い中堅保育士への配慮と出産・育児などで離職した保育士の復帰を促す狙いもある。
またキャリアアップ研修は都道府県が認めるとするも正式な説明がなく、不明な点が多く、処遇改善費の配分の仕方を自治体で柔軟にするなどの対策をとっていますが、課題が多いのが現状です。
国はこの部分に1，100億円の予算を投じて対応していることから今後は必要なお金として定着することを期待している。

［今後考えられる予算的な事項］
・社会保障費は、自然増から平成30年では1，300億円カット予定
・幼稚園の私学助成から施設型給付へと認定こども園同じ公定価格への移動
・社会福祉施設職員等退職共済制度は平成29年度中に検討
・株式会社関係施設増大、企業主導型保育は、認可外施設の枠ではあるが28年の初年度において800か所を超え、受人数は2万人

［保育士キャリアアップ研修ガイドラインの概要］
保育現場においては、園長、主任保育士の下で初任者から中堅までの職員が多様な課題への対応や若手の指導等を行うリーダー的な役割を与え、職務内容に応じた専門性の向上を図るため、研修機会を充実させることが重要である。

（専門分野別研修内容）
①乳児保育②幼児教育③障害児保育④食育・アレルギー対応⑤保健衛生・安全対策
⑥保護者支援・子育て支援
（マネジメント研修・保育実践研修内容）
研修時間　1分野　15時間以上とする

（講演Ⅱ）15：15～17：00
＜テーマ＞保育力を可視化する　－気づきの熟達化－
＜講　師＞東海学園大学　　教育学部教育学科　　水落洋志氏

養成校教員として、科学的根拠に基づき保育者の熟達について可視化し情報を発信することで、保育者の社会的地位を向上させたいと考える。

＜これまでの研究＞
泣いている子どもの状況を、初任保育者や実習生さらに保育経験を積んだ保育士に聞く。すると初心者等は、質問に対して曖昧な回答であり保育経験者は明確な回答で両者は明らかに違う。
情報の獲得は、視覚からであるため視野の広さから考えると両者に違いは無い。しかし経験者は、同じことを繰り返し経験しているので記憶が構築され注意の分散が行われるという実験結果がある。
つまり経験年数の積み重ねによりどこを見るべきかを学び知識として記憶され定着されて物事を見るため明確な回答になる。
＜関連記憶と周辺記憶＞
チェスの先行研究から、ゲームに関係する関連記憶とゲームに関係しない周辺記憶があり周辺記憶は経験の差はでないことが報告されている。この結果の意味することは、経験とともに文脈上の重要性が高い情報のある場所に優先的に注意を向けることが可能になる。だから、子どもが遊びの中で何を考えているのか表情まで読み取り予測するなど深いところまで見えている。
＜眼球運動測定＞
文脈の動画を撮影して現役の5人の初任保育者と10人の11年以上熟達者がキャブレーション⇒動画観察⇒質問紙に回答する実験に参加した。
ウエイザーチャートに結果をまとめると、熟練者は意識的に視線を絶えず動かし、より広い視線で情報を抽出して正確な予測が可能となることが分かった。反対に、未熟者は意識化されていないためベターと見ていて情報が上がってこないことがわかった。しかし熟練者のなかには少数であるが情報があがってこない人もいる。
＜今後の研究課題＞
①実験者を増やすこと
②外から見る場合と内から見る場合と箇所を変える。
③学習により気づきは向上するか検討
④気づきにおける熟達モデルを理論化

＜自立した学習者＞
経験は与えられるものではなく求めるものであり、10年の中で考えられた練習をしてきたかどうかが重要である。気づきを伸ばす機会を与えてくれる人が必要である。
＜思考と実践力を兼ね備えた保育者の育成＞
気づきを伸ばせる人がいて、PDCAサイクルをまわし続けていくと状況認識を向上させる可能性がある。初任者と熟練者では情報の抽出に差がある現状を踏まえ、なぜそこをみなければならないか。理由を含め、伝え教えられる助言的保育者の存在が必要である。